

區新小川町二丁目二十番地城方、山岳會事務所發行)

◎奥村五百子言行錄 手塚益雄著

本郷西片町 新婦人社

四六版百十二頁 二十五錢

女傑奥村五百子女史の性行及逸話を殆と漏なく集録したるものにして、其言行は直ちに模範とすべからざる點多けれど、讀て面白く、其事業に熱心なる態度は紙面に躍如として、大に吾人を感奮せしむるものあり

◎世界一周

商業界の臨時増刊にして日本を除き全世界の都會及名所風俗等を多數の寫眞版にて示し、各種の旅行者の談話を滿載せり(一部三十錢、神田表神保町、同文館)

◎新潮八卷四號

近來大發展をなし此種の雜誌中嶄然一頭地を抽けり、記事多方面に涉りて趣味饒かに活氣横溢せるを見る(二十錢、麴町土手三番町新潮社)

◎旭 丸山晚霞筆

三枚一組の石版刷繪はがきにして富士、松島及白馬山頂の旭を藏めたり印刷上の出來

は松島第一にして白馬は一萬尺の山上を想見せしむるに足る(一組十五錢、日本橋區通三丁目、松聲堂)

問に答ふ

■一 寫生に色鉛筆を使つては後の害になるや
二 研究所の夜の教授は何時間なりや
(k o 生) ◎一 害にはなられど色鉛筆は發色不充分なれば水彩畫の稽古には格別益を認めず
二 冬は午後六時より夏は午後七時より三時間
■近眼者は洋畫家として成功し得るや(北海道一讀者) ◎輕症のものは差支なきやうなり
■筆のイザケルのを避け、ノビノビとして活氣あるやう描くには如何にせばよきや(京橋k, T) ◎寫すべきものを充分見て、繪具を筆へタツプリ着け、大膽に畫けばよいので、筆を紙に着けながら屢々寫すべきものを見たり、又は一筆で塗れるところを幾度も繪具を運ぶやうでは伸々した活氣あるものは出來ぬ
■イースト氏の寫生談に、景色を寫生する時空を後に描けとあり、かくすると不都合の場合少なからず、是非空は後にすべきものなりや(京都

の人) ◎イースト先生の所説は重に油繪のスケッチにつき立論せられしやうなり、水彩にては空を先にする方便なる場合多し又調子を合せるため空を幾度も塗るもあり先に塗り中程に塗り最後に塗るのもあり其前後の如きは宜しく寫すべき景色によつて定むべく、理論に拘泥すべからず

讀者の領分

■鉛筆畫法といふやうなものを貴會から發行されたい(k, o,) ■『みづゑ』三十五は内容が確に豊富であつた、講話の多いのも嬉しい特別讀者大明神(神戸汀波生) ■『方寸』第一卷第一號、寫眞例題集第五十一卷第五十二卷を定價にて譲り受たし(小樽區手宮町十五、松田新) ■山本氏の砂目版の話は今度の『みづゑ』に出して下さい(牛込版趣味生) ◎同氏多忙のため續稿が出來ません、今少し御猶豫を諸先生の御説により水彩畫をやつて墨繪をやつてゐるが煙草をよすよりも辛い(k, o 生)